

高齢者ができる事を奪ってはいけない

介護が必要になっただけからといって、高齢者は介護する側のペースに合わせる事はできません。最初のうちはできたとしても、だんだんできなくなってしまう。確かに、はじめは人にやってもらおうと楽しんで思えます。しかし、実際に介護される体験をしてみると、とんでもなく苦痛である事に気づかされるでしょう。食べたいものを食べたいだけ口に入れないし、スプーンだっただけのこの二とが介護者には伝わらないうまくありません。更には、今日できる事を介護者にやってもらおうと、翌日はできるレベルが80%程に落ちていき、苦痛な上に、更に翌日はその苦痛の量が増え、いくという悪循環が起きます。ですから、その方が今日できる事は奪ってはいけないのです。

ご自分のペースで食べてもらうと、手間と時間がかかります。スタッフが食べさせるべきの寸も食べられませんが、時間も倍ほどかかります。それでもその方のペースを保つ事ができれば、むせたり喉に詰まらせたりする事はありません。補食は別に考えればいいので、す（飲む栄養剤等）もありません。食事以外の時間に飲んでもらう事もできます。スプーンで口運はなくても手づかみで食べられるのなら手づかみでもいい。歩けなくても這う事ができるのなら這わせればいいではないですか。「ええ、？そんな汚い事・・・」と思われ、それができなくなるのです。

車椅子にさせられたままほうっておかれた方や、介護者に手を引かれて歩いていたりする時等にアクシデントが起こって転んだりすると、たいがい骨折してしまいます。自分から歩こうとして転んだ時であれば骨折する事は少ない様に感じます。自分の意志・意欲で動こうとしているからでしょう。誰かに頼っている気持ちの時は、体の準備もできていないので骨折しやすいのです。

高齢者が自分から何かをしようとする意欲の有無で結果は180度変わります。時間がかかっても汚れてもいいではありませんか。高齢者には急がないといけない理由は何もありません。時間はたっぷりあるのです。たとえ時間がかかろうとできる事はご自分でやっていただく。私達がすべき事は待つ事なのです。